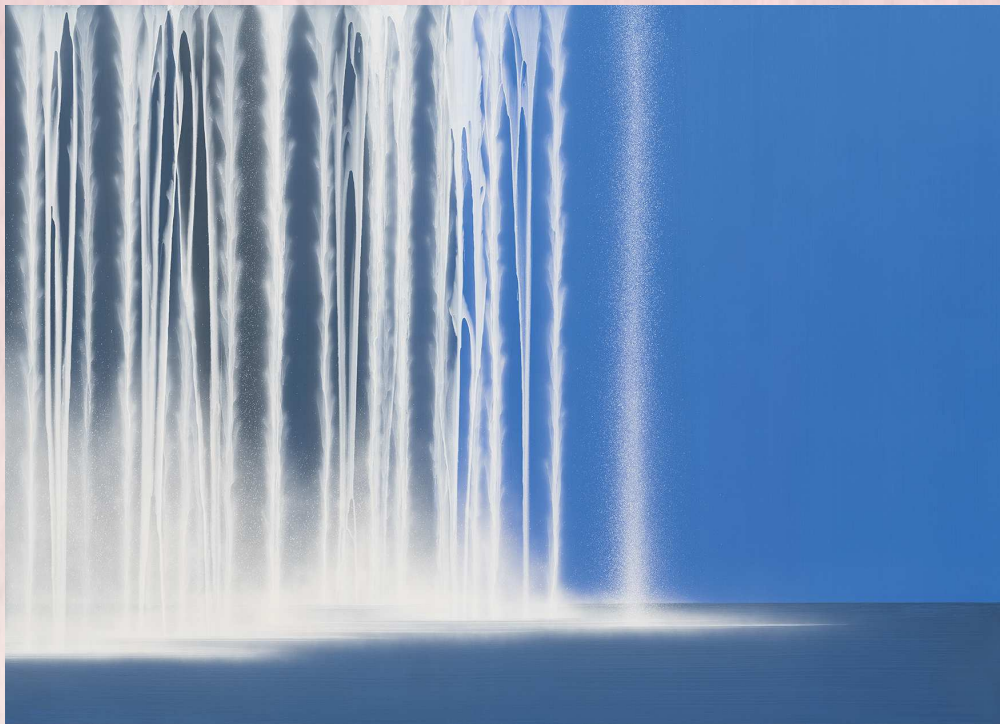


伝統と革新

千住博と

黄金の茶道具特別展



ウォーターフォール・オン・カラース



特別公開 黄金の茶道具

SPECIAL EXHIBITION

HIROSHI SENJU AND GOLDEN TEA UTENSILS

令和6年2月8日(木)~5月12日(日)

February 8 - May 12, 2024

■月曜開館日: 2/12・4/29・5/6 ■休館日: 月曜日・2/13(火)・5/7(火)

■開館時間: 午前10時~午後5時(入館は閉館の30分前まで)

■入館料: 一般1,500円/大学生・高校生700円/中学生500円/小学生以下無料

※入館チケットにて本館、黄金の茶道具、つくは野館、人間国宝館、庭、芸術の森分館、交流会館、茨城工芸会展示館、石の美術館、歴史館もご覧いただけます。

廣澤美術館

HIROSAWA Museum of Art

〒308-0811 茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ

The HiroSawa City, Chikusei City, Ibaraki Prefecture

TEL・FAX 0296-45-6228

お車で越しの際、
カーナビの登録はTEL0296-20-1111(下館ゴルフ倶楽部)とご入力ください。

ホームページはこちら
からご覧ください



伝統と革新；廣澤美術館展示に寄せて

日本文化には長年に渡って積み重なってその特徴となってきた幾つかの性格がある。これらは月日の中で洗練されたり新たな可能性が実を結んで粋が拡張されたりして、長い時間をかけて浮かび上がってきたものだ。

だからいかに目新しい文化が海外から渡ってきてても、そう簡単には崩れない。それどころかそれらも飲み込んで消化し、新たな滋養にしてきたのである。日本文化とは、そのような強靱な胃袋を持つ'生きもの'なのだ。

昔からの事柄を守る意識だけでは、新しい時代の文物と比較されて古臭く見えてしまう時もある。

人々はその都度、より完成度の高い価値体系を目指して改良する機会にしてきた。そうして日本文化は拡張され、更に深く広い様式を獲得して今日に至った。伝統の内実は革新である、と私が考えるのは、このような意味からだ。

今回、廣澤美術館が所有する私の作品を一同に披露し、伝統に軸足を置きながら革新の道を歩もうとしてきた私の画業の成果を、この美術館の名品とともに公開して下さる事になった。廣澤清会長には心からの感謝の気持ちが堪えない。これを日本文化の特色と一緒に考えてみる機会にしてほしい。

日本文化は、自然の側に身を置き、抽象と具象のハイブリッドで、今ここを表現する。そしてそれは、絵画にせよ、庭園、作陶、また茶道具にせよ、静かさに極まる。令和6年の今年、日本は年初から大きな災害に見舞われた。自然の恐ろしさの中で生かされている意識は、地震国の日本では太古の昔から人々が持っていた。

この自然の中で生きる私達の生み出した文化は、天変地異、また戦乱、動乱の中で、それらに脅かされながらも、その背景に広がる移りゆく四季の折々の華やかさや美しさを愛でて、その中で生かされていることに感謝し、今日この刹那の静けさのありがたさを作品として昇華して来たのだ。日本文化とは常に人々の側に身を置き、寄り添い、ともに喜び、ともに悲しんできた人間味豊かなものなのである。

同時に展示されることになった黄金の茶道具についても一言触れておきたい。

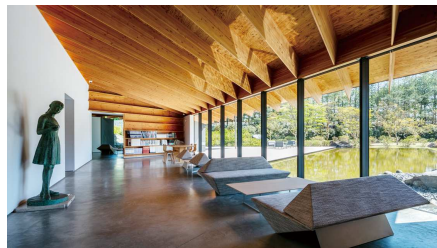
利休は、戦乱のなか催す彼らの茶会は、二度とないかもしれない貴重な機会であり、それ故「一期一会」と命名したといわれる。秀吉はそれにふさわしい道具は至上の金をもってしか太刀打ちできないと思ったのではないか。

それと金屏風もそうであるように、金の茶道具は暗い室内の奥まで光を呼び込む装置として、禅の究極が宇宙の体得であるが如く、ここに小宇宙を感じたいとする「茶禅一味」の教えに従った要用品であったとも私は考えている。

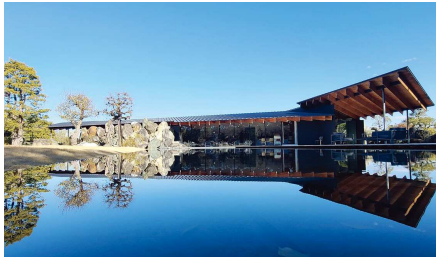
利休や秀吉が暗い室内で手にしたかもしれない金の茶道具は、その曲面にどろっとした重く軟らかい表情をたたえ、宇宙創世のカオスさえも感じさせたに違いない。

千住 博 日本画家・日本藝術院会員

美術館本館



令和3年1月に開館した廣澤美術館は限研吾氏による設計です。巨石に覆われた「石が主役の美術館」を取り囲む3つの庭は、国文学者の中西進氏により「つくは野の庭」と命名されました。ロビーから水盤越しに見える枯山水の日本庭園の眺めは必見です。

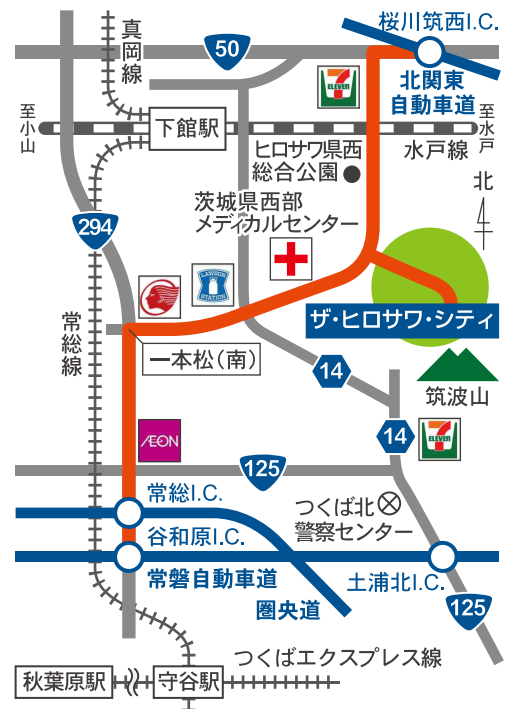


アート・カフェ・プローレ

パスタなどのイタリアンが評判のカフェレストランです。また、ご好評いただいている自家栽培・季節のフルーツジュース(梅・梨・キウイ・キンカン・バナナ等)やオリジナルのデザートもお楽しみください。



- 車 北関東自動車道「桜川筑西I.C.」から国道50号で約15分
首都圏中央自動車道「常総I.C.」から国道294号で約35分
常磐自動車道「谷和原I.C.」から国道294号で約45分
- 電車 JR水戸線・真岡鉄道・関東鉄道常総線「下館駅」北口からタクシーで約10分
- バス 「下館駅」北口から12分「廣澤美術館」下車



カーナビゲーションをご利用の際は「下館ゴルフ倶楽部」または「0296-20-1111」とご入力ください